

# 津田千枝子 型染と帯

2020年10月10日.土 — 10月18日.日

Open 11:00 — 17:00 / Close .14日(水)

作家在廊日 10日(土)・11日(日)・16日(金)・17日(土)・18日(日)



料金後納郵便

ゆうメール

## ●インスタライブのお知らせ

10日15時より、津田さんと店主高橋のお話をインスタライブにて配信します。utsuwananohanaのinstagramをご覧ください。当日、会場にいらっしゃるお客さまにもご参加頂き、素材の布の話など、お聞きしたいと思います。



## ●型染めは、素材の布によってその表情が大きく変わります。

今回の展示では、楮布(しなふ)、大麻布(たいまふ)、蓮布(はすぬの)、葛布(くずふ)、強撚木綿布(きょうねんもめんふ)、パイナップル布、野蚕布(やさんふ)などを使っています。

植物や蚕を育てるところから、糸を作り布に織るという果てしない手の仕事により生まれた正直な布達です。楮布、大麻布は100年以上前に作られたものもあり、時を超える力強さを持つ布ばかりです。

私は型染めの制作に、どうも納得がいけない時期があったのですが、ようやく行きついたのがそのような素材の布でした。普通、型染めでは敬遠されるらしい凹凸や糸の不揃いが、どうしても硬くなりがちな染めにむしろかすれや滲みの表情を与えてくれました。

楮布の存在感、葛布の輝き、蓮布の古びを感じるやわらかさ、、、布を広げると、古い時代の布作りの様子や、ミャンマー、インド、ラオス、中国などの作り手の笑顔が浮かびます。

はるばるインレー湖の奥まで蓮布を受け取りに行ったり、ラオスで織ってもらった布をインドで染めたり、自宅作業場であれこれ模様や色を決めるのも、布に促されてのようです。手強い素材ばかりですが、私の染めで布の持つ個性をそこなうことのないよう、その力を味方にして制作しています。

東洋の鄙びた古陶磁や、ヨーロッパのフレスコ画など、私の眼を養ったものと、同じ水平線で眺めるように染め布が作れたらいいなと、願望を持っています。

津田千枝子

●僕も一度ミャンマーのインレー湖の奥まで同行させてもらったことがある。最後の最後にできた良いものを舟で届けてくれたおばあちゃんから蓮布をもらい受けた。その布はできたてでも、何百年も経たような好みの布だった。今回の、楮布、大麻布は百年も経っているという。まず津田さんは素材の選び方すごく良い。また津田さんは型染について控え目で、布のつくり手に敬意をもって接していた。簡素な板を削って、インドへ持って行き、その地で染めるという。その仕事は大胆であり、自然である。

高橋台一

## 津田千枝子 プロフィール

- 1974年 東京芸術大学 日本画科卒業 在学中から型染を始める
- 1979年-1980年 ニューヨーク在住
- 1987年-2003年 毎年ヨーロッパの中世美術などを訪ね歩く
- 2005年 インドラジャスタンの工房にて木版染めを行う (以後毎年) 青山八木にて個展 (以後毎年)
- 2010年 うつわ菜の花にて個展
- 2014年、2017年 箱根菜の花展示室にて個展



楮古布



葛布



## 箱根菜の花展示室

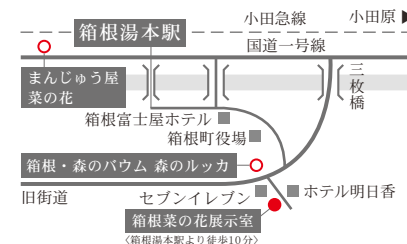
〒250-0311 神奈川県足柄下郡箱根町湯本351-2  
Tel.0460-83-8166 <http://nanohana-tenjishitsu.com/>  
[休館時連絡先] 菜の花暮らしの道具店 Tel.0465-22-2923

### ○自動車でお越しの方

国道一号线「三枚橋」信号から三枚橋を渡り、旧街道沿いセブンイレブン手前を左折100m上る。小田原厚木道路・西湘バイパスをご利用の場合は、「箱根口インター」で降りずに進み湯本の手前でおおりて、国道一号线を箱根方面へ、三枚橋を左折してください。三島方面より箱根新道でお越しの方は、「須雲川インター」が使えません。箱根新道を過ぎ次の降り口より国道一号线を箱根方面へお進みください。

### ○電車でお越しの方

箱根湯本駅を下車し富士屋ホテルへの橋を渡り箱根町役場方向に、進み、旧街道へ。湯本駅より徒歩10分です。



# 津田千枝子 型染と帯



蓮布



蓮布



葛布



櫛布 (雌株)



大麻古布



葛布



強撚木綿布



大麻古布



櫛布 (雄株)



大麻布



パイナップル布